－所蔵作品紹介－

吉田　幸男　YOSHIDA Yukio

神秘

しんぴ

作品データはこちら

椅子の起源をたどると、西欧では古代エジプト、日本では登呂の遺跡にまでさかのぼるといわれます。その歴史は洋の東西を問わず大変長いものがあり、またいずれも権威、身分の象徴として使われてきました。そして、近代になって一般庶民の生活の道具として普及してきました。〝使いやすさ〟、〝座っての快適さ〟、〝デザインの美しさ〟などが現在の椅子に求められていますが、それとともに、近年は、人に親しみやすい木が素材として再び注目されています。

1984（昭59）年に、当館では「木の椅子は語る―そのかたちと意味―」という展覧会を開催しました。これは広大な森林を有し、良質の木材を産出する北海道の地域的特性をふまえて、道内在住のデザイナー、彫刻家など72人に自由な発想で「木の椅子」と取り組み、制作してもらった作品を展覧したものでした。今回紹介する作品は、この展覧会に出品された椅子の一点です。

素材はニレの埋れ木で、品のあるグレーの色調と美しい木目がまず注意を引きます。また、形態も大変ユニークなものといえるでしょう。作者は、スペイン製のロッキングチェアーからこの形をイメージしたと言っていますが、どこか、イタリア・ルネサンス期の代表的な椅子「サヴォナローラ」を思わせます。いずれにせよ、近代の機能主義的デザインにはみられないゆるやかな曲線や装飾がみられ、今はやりのポスト・モダンのデザインをもほうふつとさせます。それが埋れ木の色調とあいまって、典雅で神秘的、あるいは象徴性に満ちた作品となっているのでしょう。

作者は士別市生まれ、1969（昭44）年にベルギーのブリュッセルで開かれた第18回技能オリンピック世界大会で特別賞を受賞しています。1983（昭58）、北嶺工匠を設立し、現在旭川在住の家具デザイナーです。

旭川美術館だより「氷華」No.12（1986.６発行）「収蔵作品から」より